

平成 28 年度 みんなで支える森づくり 上小地域会議(第 2 回)

- 1 開催日時 平成 29 年 3 月 3 日(金) 午後 3 時 30 分～午後 5 時 15 分
- 2 場 所 上田合同庁舎 601 号会議室
- 3 概 要 本会議では、みんなで支える森林づくり推進会議の設置及び運営に関する方針第 2 により設置し、第 5 により所長が招集している。第 2 回は、長野県森林づくり県民税活用事業の実績と計画を議題とし、里山整備の現状と課題を中心に森林づくり県民税の P R や活用の方法、今後のあり方等について意見をいただきました。
- 4 参加委員 (五十音順 敬称略) 6名
信州上小森林組合 参事兼総務課長 石井 公彦
青木村農業女性グループ 上原 栄子
NPO 法人 やまぼうし自然学校代表理事 加々美 貴代
長和町役場 産業振興課長(座長) 金山 睦夫
上小商工会議所 事務局長 矢ヶ崎 雅哉
上小地区生産森林組合連珠協議会 会長 矢嶋 茂雄

以下議事録

座長 金山委員

『平成 28 年度 長野県森林づくり県民税活用事業の実績について』

『平成 29 年度 長野県森林づくり県民税活用事業の計画について』

説明 推進事業について 志水企画幹

木育事業について 武田技師 補足 井上課長

金山座長

ここは矢嶋さんの方がお詳しいので、ちょっと説明していただけるとありがたいです。

矢嶋委員 (意見)

5 ページに載っていることについて紹介してくれないかと、志水さんのほうからお話がございます。一番下の写真、青いの、茶色いの、それからオレンジ色の方、五名ほど写っておりますが、仲間は非常にたくさんいて、現地に向かいます、私たちの山、ここに書いてある通り面積が 1 8 2 h a がございます、なかなか手入れが昨今、大勢で出動をか

けるんですが、プロではない、まあ上小森林組合さんのご指導を頂きながら安全のようにやるんですが、なかなか広い面積があるために〇〇にいかない。私たちの山の構成員が108名おりまして1人およそ2ha、100m×200m、この辺の小学校ならグラウンド2つぶんぐらい、我々の面積とすればあるんですが、到底及ばない非常に広範囲で、何とかみんなに頼んで、感謝の言葉を前面に出しながら、お金は払えないので、半ば人情的なボランティア的状况ですが、そのような中でも五年前に森林税というものが〇〇としてありまして、この写真で見ると間伐前、間伐後の写真だと思いますが、非常に今まで日が差さないようなところをかなりおろのいたので生育も順調で、おかげさまで日が差すようになって、森林税のおかげで一部甦ったところがあるということをお願いしたいと思います。簡単ですがそんな状況です。

金山座長

まだまだ整備すべきところがあるということですね。森林税の関係でいかかでしょうか。実績あるいは計画のところでも。

質問 なし

それでは、里山整備の現状について説明いただいた後で、また全体を通してご意見を頂ければと思いますので、よろしくをお願いします。

『里山整備の現状と課題について』

説明 志水企画幹

金山座長

説明がありましたが、先ほどの現地調査の中でも最初のうちは使い勝手がよかったんだけどというような話があったんですが、今の説明の中にもあったんですが、やはり1・2年後に使い勝手の良さだけに問題が出てきて色々と制度を直してきたと、そういうことでよろしいんですね。

志水企画幹 はい。

金山座長

それでは、ただいま説明があった里山整備の関係、現地調査の感想でも結構ですし、森林税の実績、計画、ほかの地域会議の意見などを踏まえまして、ご意見を頂ければと思いますので、よろしくをお願いします。

上原さん、山を見ながら農作業をしているかと思いますが、里山のことも見ている立場

だと思うんですが、いかがですか。

上原委員（意見）

PRの新聞、とてもよかったと思います。それと森林税について、さっきも里山を見てきたんですが、やればきれいになるのはわかるのですが、当事者とかその地区の人が知っているのかなんですね。できればそういうことをやるときには、村なんですが、有線とかありますので、今日は森林税を使って里山の整備をします。もし見たい方があったらどうでしょうと言って、最初の状態と、整備が終わった後、こんな風になりましたよということで見せてもらえば、森林税を使って、ああそうなんだってなるんじゃないかな。私はここに出てきているから、そういうこともわかりますし、実際に見せてもらっているんですが。関心がないというか、当事者はあるかもしれないけど他の人は、そういうものを実際に目にすればいいんですが、目にしなければ、あんなこと言っているけどどうなんだろうという感じなので、できればそういう機会があれば良いなと思います。

志水企画幹（回答）

今の有線を使ってというのは思い付かなかったので、確かにそういう形で、これからやりますよと言ってもらえば、どこなのかなあとイメージが沸くし、それがすぐに裏だというはなしになれば、ちょっといってみようかという形にできるんで、非常に良い有効なPRの仕方だなと思いました。

矢ヶ崎委員（意見）

税を利用して町場の〇〇ってことも考えられるかと思いますが、それだけに限らず、木育のいろんな事業については、実際に森に行くことが良いのかなと、28年度は森の中でやったこともあるようなんで、私たちもそうですが現地に行って話すのと、会場だけでやるのとは全然、雰囲気がちがうので、なるべく大勢の方に現場にいらしてもらおう企画をしていったらどうかなと思います。

それから私も今日、自分で持ってきたんですが、やっぱり関心があるとういうものも見るんですね。なるべくこういう形で使われているというのを今後もPRしていくことが大切だと思います。商工会の立場として、これは法人からの税金もありますよね。ただ法人が〇〇っていて、法人の人たちが森林税について色々どうなっているのとか、なかなか話題になってない。結構な税金を納めている割には企業の方たちの関心が低いかなと、なかなか話題に上がってこないというのがあるので、もう少し長野県の森林のイメージはとても良いので、企業さんにとってもなにか、企業とのコラボの事業があったり、うまく企業さんを活用するような、だんだんに何年も経過しているので、そういう〇〇した方が広がりが出るのかなという感じがします。

金山座長

前回、上田の企業さんが森林整備のためにというお話がなかったでしたっけ。事業を実施するようなところに森林税は使われていないんですかね。実際には企業さんが出しているというような。

井上課長（回答）

環境保全活動の一環で、例えば東山でしたら日高精機さんが〇〇していただいて、また何回かに分けてこれからも繋げて〇〇。その時に税は使われていない。

金山座長

そういったPRにつながっていけば、PRすることに使うことも。それから木育の関係でも思ったんですが、去年の植樹祭の関係で、子供たちがドングリから育てて、それを植えるというようなことがあったと思うんですが、ああいうようなことは継続的にという考え方はどうなんでしょう。県の植樹祭などでは続けないのですか。なかなか難しいんですかね。

志水企画幹（回答）

やっぱりなかなかうまく育たなくて枯れてしまったりがあるようで、なかなか大変なようです。ただ育っているところを見せるというのは非常に良い教育の分野なので、そこら辺というのは良いものを生かすというのは必要なと思います。

逆にちょっとお聞きしたいんですが、企業の方が関心を持つためにはどうすればいいのでしょうかね。

金山座長

自社のPRとかに繋がるようなことをやるってことですかね。地球環境に優しいとかそういったところですかね。どうなんでしょう。

志水企画幹

企業イメージを上げるために投資をするというのは、その辺はこの制度の中にもそんな形の部分があるんですね。だから自分たちは企業としてこういう環境対策をやっています。なおかつ自分たちでお金をかけてこれだけの山を整備していますという形になっているから。そういうPRの意味もあって成立しているというのはあるのかもしれないです。

〇〇委員

お金にならないんだよね。

志水企画幹

色々な意味で効果がないと、そういうことではないですか。

〇〇委員（意見）

そういうわけではないんですけどね。イメージとして一緒にこの森林税の事業を我が社と一緒に、このような取り組みをしていますというようなイメージがつけば、別に悪いことは企業さんとしてもないと思うんですよ。

志水企画幹

やはり環境対策にやるという、その部分を持っているということであれば……。

矢嶋委員（意見）

法人で、例えば国道のごみを拾ったりしてますが、企業さんの名前を背中にしながら、「ああ、あの会社が拾ってくれているんだな」とか目に付くので、ずっと続けてやってくれる企業さんもあるみたいですから。山の方も企業さんで、山の中に入ってそういうイメージ作りができるような、なにか一風変わったやりがいがある行ってきた、おいしい空気も吸ってきたし、気持ちよかったというように、参加された方が充実してできることがあれば。

上原委員（意見）

植樹祭があるから、参加してくれた子供たちに鉛筆か何かに、日高精機のホームページの文字を入れたものをあげることはできるんですか。自分の会社のイメージのために、お金かかるかもしれないけど。いま矢嶋さんが言ったように何かちょっとした背中に書いたものをしょってね。

金山座長

あの山に行ってきたよっっていうような、やっぱりそれをやるにも、やはり里山の方が、子供たちにも同僚にも、あそこを俺がやってきたんだと言えるような場所がいいのかもしれないですね。

加々美さんいかがですかね。NPO法人の活動の中からでも結構ですが。

加々美委員（意見）

里山の整備は森林税と関係が深いと思うんですが、法律のことはわからないんですが、20年のくくりがあるとかおっしゃってましたが、20年間、税を出して整備し続けることができる仕組みがあれば、渋っている地主さんも変化が見届けられて、地域の人に喜ばれる森になれば、20年経った後も継続して地域で使ってもらっていいですよとなる気

がします。一回だけやって20年間放置となると、もうちょっと儲かる方に変えようかなと思うけど、20年間ずっと手を掛けてもらってれば、それだったら地域のために、県のために、このままいい〇〇として維持していこうかなって、そんなに甘くはないかもしれませんが、思ってもらえるかなと思います。前にも言ったかもしれませんが、全体的に薄くやるんじゃなくて、ここはやるよという地域に集中して・・・・・・・・上田と東御の境も昔は山にまきを取りに行くとかの価値があったからみんな持っていたのかもしれませんが、今そういうエネルギーに関する価値がなくなっているので、新たな価値を見出すのは難しいですが、例えば緩やかな里山であれば、長野県が推奨している森の自然保育のフィールドとしてみんなで整備しましょうとか、外で遊ぶのは大事ですよとか、社会貢献活動で今、精神を病んでる人が多いですけど、心と体を使うとリフレッシュしますよとかそういう、新たな山の価値というのを発信していければ良いのかなと思います。

金山座長

ここはやるっていうところをどういうイメージで、個々の山は整備しましょうというのは、加々美さんにとってどういうイメージでいらっしゃいますか。

加々美委員（意見）

入り道があって入りやすい、奥山ではなくて地域のために色々なお金をかけても効果の出やすい場所ですね。

金山座長

国庫補助の〇〇にでてきたという経過があると思うんですが、国庫補助としては里山ではない奥山の方、本当に材を生産する方の、そういう形でもできるわけですかね。

志水企画幹

現に税事業ができる前は国の補助として森林造成というものをやってきているので、それが〇〇としてあります。ただ税事業がでてきたのは、とにかく身近なところでやりたいということで、税負担が〇〇趣旨がある。今それも幸か不幸か目に見えるところが〇〇を稼がなければいけないということにある意味、すり替わってしまっているところがあって、そのためにどうしようかということで、苦肉の策とまでは言わないまでも、国のお金を入れながら事業を大きくできるようにしよう、というようなことをしてきたという経過はあります。ですので国の補助事業というのはそれこそ、私たちが入ったところからといういい方もおかしいのですが、それこそ20年も30年も前から細かなところで〇〇〇〇があって森林づくりは〇〇〇〇すすんできています。

金山座長

森林税と最初のうちはすみ分けてやったりしていたんですかね。

志水企画幹

そうです。だから逆に原点に戻るといいますか、その辺は実際、奥山の方については造林の国の補助でやりましょう、そして里山の方については細かく今、加々美さんが言われたように集中的に必要な所、効果のある所に〇〇〇〇それで〇〇〇〇にある程度縛りのない中でできるということが必要なのかなと思います。

金山座長

石井さんいかがですか。

石井委員（意見）

皆さんご承知のように税事業ができたとき、色々とPRやらなにやらをやって里山、住宅のそばのところ獣が出てきたりするところを、地元でやぶやぶになっちゃってるところを何としてもやってくれというような意味合いがあって、見てもらった資料でもわかる通り初めは、手をあげるところがなかったんだけど、これただでやってもらえるなら俺のところも、俺のところもとでてきて、うちの方もその当時は、現場でも話があったんですが、向こうの方〇〇になれば獣も出てこないし、この上小地区も〇〇の方がちょうどいいんじゃないかということで、一生懸命やりました。税事業にはどうしても縛り、後ろの方のところ林齢がどうだとか、面積を大きくしなきゃいけないだとか、国庫事業と一緒にいついてるってこと、言葉を優しく言うとかそういうことですが、はっきり言わせてもらうと税単独事業であれば、税金と税金の隙間を埋めてもらって、人の見えるところも出来るんですが、国庫事業がついちゃってるとやっぱり、補助金でオカミからもらうお金だからどうしてもハードルが高いです。木の林齢も何年までですとか、森林の密度どのくらいですとか、挙句の果ては密度とは本数で管理すればいいと思ったら、気を切ったら空の見えるところで空間が開けてこなければいけないだとか、話に入る前にすみません、2番目の説明した担当者から仕事に入る前にうんと手間がかかって余計なこと言ってしまって。仕事が決まれば、地区の人はみんな協力してくれますって、それをどうしてもいえる機会があったら言ってくださいと言ってました。調査に入るときも職員だけで入る場合もあれば、地元の人と一緒に入ってもらう場合もあって、なおかつそこを実際にやるよとなったら、地区の人みんなちゃんと協力して教えてくれたり、見に来てくれたり、アドバイスももらったりしています。ちょっと言葉が足りなかったということでした。言わんとするのは、そんな中で、私が知っている中でも小学校のそばの山、**集計事業的**なことで松林に雑木がまざってれば、松も切ります、雑木も切ります。向こうが見えるような山にして子供が遊べるようなところになりますよ。地域の住宅の裏山のところは、お年寄りになって昔は自分でやってたけど、もうできなくなっちゃったようなところ、税事業でネットして獣が出

てこないようにやりますよ、ということでやらせてもらったんですが、だんだん補助のハードルが高くてできなくなってきました。個人的に思うのが今の税事業、先般のアンケート調査でも去年の税事業は何をやったか分かった、使い方もわかったけど勉強すればするほど、新聞紙上でお騒がせしている森林組合でございますので、知れば知るほど何に使っているのかわからなくなるというのが、この間でいたアンケート調査の結果だと思んですが、そんな中で本当に県で進める〇〇のところに足して、不足のところに補ってやらなきゃいけない奥山の自然利用もあるんだけど、せっかく県民の方からもらっている事業なれば〇〇のところ、周りの見えるところ、先ほど加々美さんからもお話があった、見えるところやぶ切るの、なんせ地元じゃできないようなところ、そこに充てさせてもらって、明るくすっきりした感じの集落、地域になればと、こんなのを切にお願いいたします。

それから加々美さんの方から20年というお言葉あったんですが、20年をもっとわかりやすく言うと、この税事業で一度、手を入れたところは20年ほかのところに転用してはいけませんよという、そういう意味の20年でございます。適切な処理の20年というとその山の木をみんな切ってしまうなくちゃ、みんな切ってしまったら〇〇かかったときのお金をみんな返さなければいけなくなってしまいます。だから20年の県と税事業をやるところの、協定というのはそういう意味を持っています。ならば自分ちの裏じゃなくて日当たり関係なければ、そんなおっかない協定しないよと、ハンコ押さないよ、という方、そんなことは言えないので、自分は20年先に生きていくかわからないから、先のこととはわからないからハンコ押せないよ、こういう言葉で返ってきちゃいます。本当に皆さんの税金を使わせてもらうわけですが、ちょっとハードルが高いんじゃないかという気がします。せっかく〇〇でもらったのでこれで新規のところ道端でも住宅の〇〇の周りでもいいから、この木は何十年だとか林務密度はこのくらいだから間伐やっていいとかいけないとか、そんな難しいことじゃなくて、やぶ切ったりツル切ったりして向こうが見えるようなすっきりした山で持っていかれるような具合に使わせてもらえれば。また、私どもが森林組合という立場で話をすれば、ここをやってくれないかという話をもらったりするのは、割とそういうところが多いです。地区の人からこのところ何とかならないかとか言う話をもらうのはそういうようなところが多いもので〇〇の方からお金をもらってそういう言い方もいけないんだけど、そんなようなことを言わせてもらいました。

金山座長

やっぱりみんなで少しずつ出しているお金なので見えて、あそこが俺の500円できれいになっているなあと見えるのが必要なのかなと思います。

〇〇委員（意見）

どこをやったのかわからない。人が行かないんですよ。だからどこやっただの、何やったのかわかりませんということになってしまう。それが今日見てもらったような、ああい

うところを地元から注文というか、ここ何とかならないかということで自治会等から話がでたところが、これは森林税で皆さんの税金できれいになったんだよという話になれば、地域の方〇〇として残るし、もし色々な制度があるとすれば、先ほど加々美さんのはなしを聞いて、税金を使ったところは第三者の人が、所有者がある山でも散策とかができたりだとか、税金を使って山を手入れしたところは一般の人が入っても良いよというような、そういう意味合いをつけて話してもいいかなと、あんまり難しいハードルをつけられると仕事ができなくなってしまう。要望に応えられなくなってしまうというのが正直なところですよ。もう少し柔軟に対応してほしい。

金山座長

矢嶋さんのところもまだまだ整備しなければいけないところが残っておるという中で、自分のところだけでなく周りもそうだと思うんですが、そういう中で使い勝手とかそういう部分でいかがですか。

矢嶋委員（意見）

昨年なんですけど補助事業をしながらなんとか維持、運営を図っているところなんですけど、末期が来ている。まあ6、70年のかなり大きな木です。そこをおろのかなくちゃいけないということで、どうしても怪我が。〇〇で怪我をした人が居て我々も心配したんですが、その日のうちに〇〇で戻ってこれまして、安心したんですが。出来るところで、もう補助事業の対象になるようなところはなくなってしまっている。補助対象のハードルが高くてリスクも大きい、話を広げていけば森林税、〇〇有数の長野県が率先して創設して導入されて、価値あるお金を有効に使わなければいけないのに、残っているというのは大変に残念ではあります。やはり、広い意味でどのようにみんなで使っていけばいいのかなというか、使い方話もありますが、その辺を工夫も必要だと思っています。

資料の19ページ◎これからの森林づくりの三番目、森林税活用事業、この部分が内容的に非常に重要だと思っていて、間伐から皆伐をする時期が来ていると、きているんだけど皆伐ができないというのは、その後、裸になったところは植林して造成していかなければいけないという長い道のりがあるわけで、そこら辺どこの〇〇が支えていくのかというのがあるので、そういう意味で将来に向けては森林税を廃止するのかわかりませんが、更に〇〇を負担して〇〇な話ではないかなと非常に重要な〇〇と思っています。それから、森林税も絡んで上小の地方事務所さんと信州上小森林組合さんと木と緑のフォーラムで、勉強会をさせていただきました。その中の先生方のお話の中で木材〇〇の転売をしているということで、コストは十分に今、低コストだと思うので、これ以上売れないくらい。ただし経費がかかってしまう。だから中間に入る運搬・伐採を請け負う方についてはそれ相当のお金を払わなくてははいけないですが、それが材木の値段に反映できない。だから要するに当たり前のことを言っているんですが、循環ができない〇〇〇〇、そこをどの

ように、不安を解消するために先ほどの木育という話もあったんですが、木育の立ち位置を変えて、新木造住宅時代と先生はそんな話をしていました。それから木使い、木をどのように活用していくかというものの、これからスタート位置についていると、だから材木を使いながらこの産業が循環する形に戻していくすり合わせを、今からみんなで共有して木育を更に発展するような形で、特にヨーロッパの方では、8から10階建てを直交集成板と言っていてCLTというんですが、強度がかなり高まるそうでして、すると8、9階建ても夢ではない。実際にヨーロッパではされている。日本では建築の設計する人が育成されていない。そんな話がございまして、勉強というか教育というか技術者をどうやって育成するか、県を挙げて国を中心にそういった技術者をどのように養成していくか、これも大事な〇〇だけでも、そういった技術者を創ることによって材木の価値も上がって、循環をしていくと自然と林業も活気を取り戻していくんではと思うんですが。今、山を見て里山を含めて便利のいいところはローコストで木材を搬出できて、それで社会に還元ができるんですが、どうしても出来ない、どうにも山が高くてとてもじゃないというところがある。核の言葉を残しておいて線を引く中で、皆伐をして造林をしながら社会に還元していくような方法を木育を更に発展した形で技術者を養成するといった方にも予算を振り分けていくというようなことを国の方にも働きかけることが大変に大事。とすると自然に紐も緩んでくる、気持ちも緩んでくるんで、少し冬から春になるかなと思います。

金山座長

循環型に回るための潤滑油になるような森林税の使い方ということだと思んですが、事務局からも課題があった中でご意見等、いかがでしょうか。

上原委員

ここはどうしよう、ここはどうしようということを確認にしてやればと思います。

〇〇委員

山をもう一度、現地踏査するというか、かつて私たち30年ほど前ですか国土調査というのがありまして山も確かやったとは思いますが、やったんですが今、もう隣の境もわからないという時代を迎えちゃってて。それを全体的にどうしようかと再度見直しをしながら、所有者の〇〇といいますかそういうものを掛けながら、改めて国土であるし県土であるし、みんなの資源であるから、とりあえず所有者があるとしても全体的な観点から方法というものを、これから山に向けて考えることが必要じゃないかなと思います。

金山座長

里山について私も思うんですが、今、信州ブランド〇〇、だから里山にも信州ブランドがあってもいいんじゃないかと思えます。武蔵野といえば雑木林というイメージです。じ

やあ信州の里山って、安曇野だったらどういうイメージなの？というところが生まれるような使い方をしてもいいのかなとは思いますが。やっぱり奥山だとちょっと見えない部分なので、里山の方の整備が重要なのかなと思いました。

遅くなってしまいましたが、課題について、それぞれ委員の方からご意見いただきましたので、以上をもって会議を終了としたいと思います。ご協力ありがとうございました。

会議は以上、その後、事務局から今後の予定が説明される。